令和６年度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト　（県立朝霞高等学校　全日制課程）

目指す学校像	より高い学力を身につけ、心豊かで社会性のある自立した生徒を育成し、進路希望を実現する。

重 点 目 標	1　現行学習指導要領を踏まえた授業改善を行い、生徒の学力を向上させる。 2　生徒に授業・家庭学習及び進路学習に積極的に取り組ませ、希望する進路を実現させる。 3「コミュニケーション能力」と「物事に主体的に取り組み、考える力」を向上させる。 4　保護者・中学生とその保護者・地域に向けて積極的に学校の教育活動を情報発信する。

※ 重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不 十 分	（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	６名
	生　徒	１８名
	事務局（教職員）	１５名

学　校　自　己　評　価

番号	年度目標：現状と課題	年度目標：評価項目	年度目標：具体的方策	年度目標：方策の評価指標	年度評価（R７年 1月 9日 現在）：評価項目の達成状況	達成度	年度評価：次年度への課題と改善策	学校関係者評価（実施日 R7年 2月 7日）：学校関係者からの意見・要望・評価等
1	□現状　現教育課程完成年度を迎え、各教科中心に主体的・協働的な学習、年次を中心に「総合的な探究の時間」の充実が進行している。 ICT の活用、年次進行でﾀﾌﾞﾚｯﾄを使用した授業が拡大している。 □課題　校舎大規模改修の下で支障ない教育活動。ICT はじめ施設環境改善、人的保障。	・校舎大規模改修対応 ・現教育課程を踏まえて、主体的・協働的な学習・授業、学習評価等の改善について、共通理解の促進、具体化推進。 ・ﾀﾌﾞﾚｯﾄ等 ICT の授業への効果的活用。	・危機管理の視点を踏まえ、校舎大規模改修対応と、年間計画との適切な調整を実施。 ・主体的・協働的な学習を模索し、思考・判断・表現に関わる授業改善および「総合的な探究の時間」の取り組みを進める。 ・機材の充実、家庭環境等に配慮しながら、ﾀﾌﾞﾚｯﾄ等ICTの効果的な学習への活用を拡大させる。 ・そのための課題や、学習評価等の情報共有を教職員間で進め、共通理解を生徒・保護者にも着実に形成し広めていく。	・授業アンケート等から授業外学習時間状況、授業改善の取り組みへの意見などを集約し評価する。 ・現教育課程、ICT活用、授業改善の取り組み、学習評価等の共通理解について、教科会、研修会などを通じた情報意見集約の状況から評価する。	校舎大規模改修（特別教室棟）対応については事務・教員の連携を密にし、行事日程や２学期の工事による授業場所の確保・調整などにより大きな支障なく乗り切った。 ﾀﾌﾞﾚｯﾄが２年次まで導入され、国数英理社の授業利用が増。ICT 活用に 12 年九割程度３年でも七割肯定的である。主体的・協働的な学びを目指した授業改善に国社芸等および総合的な探究で取り組まれ、全体として生徒七割が肯定的である。学力向上と MetaMoji 活用を目指して教員研修会も開催した。施設改善も一部進展があった。 生徒の授業理解・集中も 12 年次で高まった。	A	未改修校舎に要修繕個所があり、応急対応はしているが、改修の早期実施が待たれる。 ICTに関しては、タブレットの全生徒使用に耐える施設改善が必要。また、校務分掌の組織改編で一定の改善を予定しているが、担当者の大きな負担は続くため、県による人的保障が求められる。 文科省・県通知によるリモート授業による単位認定についての検討が必要。	校舎等のインフラは必須であり計画的に進捗するようにしてほしい。 タブレットが導入されている１・２年は、３年生よりもICT利用に関するアンケート結果が良好であり、適切に活用されていることが見て取れる。全学年ICT利用を見越した施設設備のいっそうの充実が望まれる。 ICT活用は、研修会等を通じてスキルアップに努力されているが、学校毎の対応には限界があり「人材を確保しシステム構築を図る」よう県教委に問題提起してほしい。
2	□現状　ほとんどの生徒が自分の進路希望実現への意欲は高いものの、授業外学習などの取り組みが遅れ気味である。 □課題　早い段階からのきめ細かい進路指導と、一般入試を追求する生徒を育てること。希望実現に強い意志を持つ生徒を支援する体制の維持拡充。 現教育課程下の初入試への適切な対応と指導。	・進路情報の収集と適切・的確な進路計画の推進 ・早い段階からのきめ細かい進路指導と、主体的に進路を考える生徒の増加。 ・進路実現に向けて補習の充実。	・生徒の希望および生徒の家庭状況に十分配慮しながら、学校内外の各種進路行事を適切・的確に推進し、各年次の生徒個人別進路ファイル等を活用して進路意識の向上を図る。その上で総合型選抜入試等の有効活用、および一般入試を追求する生徒増を目指して、生徒の主体的な行動を促す。 ・生徒の負担に配慮しつつ進路意識醸成により、授業外学習を促進するとともに、校舎大規模改修との調整を図りながら補習授業を充実させる。 ・現教育課程下の初入試等、進路希望実現に資する進路情報収集と進路資料充実を図る。	・生徒の希望に沿った適切な進路指導と進路意識の向上、および授業外学習の定着が図れたか。 ・アンケート、個人別進路ファイル等生徒の学習計画把握から評価する。 ・補習の開講・参加状況から評価する。	年次・教科の教員による継続、工夫した指導や進路行事を通じて進路意識の高まりがアンケート結果にも表れた。自習室の利用が低学年にも拡大定着し、受験関係資料の貸し出しが増えた。 教員全体での小論文や面接等の指導が効果的に実施され、総合型選抜、学校推薦型入試受験者の希望に応えられた。さらに今年度からの併願型公募推薦希望者にも対応できた。昨年度に続き、共通テスト出願者が200名を超えた。 授業外学習では低学年で増加傾向。模試活用や進学補習活用など進路意識具体化のとりくみ全般でも低学年で向上の傾向が見られる。	A	進路意識は高学年で高い状況は続き、低学年における具体的行動にまで発展していない現状は少し改善されつつある。 今後、併願型公募推薦とその受験希望者の大幅な増加が見込まれるが、その指導と時期が重なるその他の受験形態希望の生徒への適切な指導が求められる。 進路室周辺で生徒が利用できる恒常的ネット環境整備が求められる。	入学直後の１年生にとって、卒業後の進路を踏まえた取り組みは難しいと思うが早い段階からの進路意識の高揚を図ってほしい。 進路希望実現への意欲が高いことはとてもよいことですが、授業以外での勉強時間が意欲的でないのはもどかしい。改善が広がっていくことを願う。 学力検査以外の方法で選抜、「併願型公募推薦」等、新たな選抜方法を導入する傾向にあり、生徒の希望に添った対応が必要になる。 保護者アンケート「進路指導」の評価の年次毎の違いについて原因を検証してほしい。
3	□現状　基本的な生活習慣、学習への姿勢は概ね良好である。校則、校内外マナーなど身近なことを自らの問題として考える取り組みが始まっている。 □課題　SNS 等との向き合い方が未熟な生徒が少なくない。それを踏まえて、生徒間および大人も含めたコミュニケーション促進の取り組みを進めること。また、成人となる自覚を促すこと。	・体育祭･文化祭・修学旅行等の学校行事および、部活動等の適切な実施、両立。 ・行事･部活動等を通じてコミュニケーション促進、考える力の育成、心のケア実施。	・行事やHR活動、部活動を通じたコミュニケーションをさらに進める。 ・学校生活のあらゆる場面で規範意識を育てる。特にSNS等、ネットに関するトラブル防止などをはじめとして心のケアに留意した教育活動をすべての場面で進める。 ・整容指導、時間管理、所持品管理、挨拶などマナー等指導に地道な取組を続ける。 ・生徒総会、「未来を語る会」の運営・学校評価懇話会への参加を通して、全校生徒が身近な校内課題を自分たちの問題として捉え、意見を集約し学校生活の向上に役立てる。	・安全に配慮しつつ、学校行事、部活動を運営し、コミュニケーションが進められたか。 ・ネットトラブルを防止でき、かつ生徒によるとりくみが進んだか。 ・以上について、アンケートや年次会、分掌会等を中心とした情報共有の状況から評価する。	校舎大規模改修と調整しつつ各行事や部活動を実施して生徒の行事・部活動を通じての充実感も増加し九割程度となっている。 チャイム授業等授業規律はじめルール・マナー遵守の意識は全体的には高い状態を維持している。ただし、一部にはSNSトラブルはじめスマートホン利用について課題がある。教員からの指導を深めるとともに専門機関による講演会を開催し啓発を行った。 生徒心得の検討に着手した。 生徒会役員は、文化祭後夜祭復活など全校生徒の要望を実現し、挨拶運動など生徒全体に働きかける動きを進めている。	A	行事･部活動等の活動はコロナ禍から回復してきており、コミュニケーションの質量の向上を図る取り組みが引き続き求められる。人間関係に悩んだり個々には複雑な課題を抱える生徒もいる。SNSについてはクラスや部活動等、集団への指導の工夫が必要。 行事・部活動の活発化を図りつつ、教職員間の連携、生徒会をはじめとする生徒組織との意見交換や個々の生徒への支援などをきめ細かに行っていく。	コロナ明けの積極的な取り組みにより生徒のコミュニケーション能力の向上、規範意識の醸成につながったものと思われる。 体育祭・文化祭などの学校行事が盛り上がって開催できたことを喜んでいる。 SNSトラブルは、「他者への想像力」と関係する。ぶつかりながら人間関係を深めていく「対面での経験値」を保障することが遠回りなようで本質的な対応になると思われる。一人一人に向き合った指導が今まで以上に求められる。教職員間および生徒との情報交換を積極的に行い、課題解決に努めてほしい。
4	□現状　保護者、中学生、地域への情報発信は ICT も活用して積極的に行っている。学校見学会等も確実に実施し、入試志願者数は増加傾向にある。 □課題　入試志願者数の対策。保護者との相互理解の深化。 保護者・教職員が関心、意欲を高められるPTA活動の模索。	・学校説明会･見学会等を通じて、中学生、保護者、地域の本校理解の促進。 ・保護者・教職員のPTA活動への関心向上と参加の工夫。	・中学校・塾への学校説明、入試説明などを広く丁寧に行い参加者を増やす。引き続きICTも活用して情報発信を積極的に行う。特に、よく利用されているホームページのさらなる内容充実を図る。 ・PTA役員や保護者の活動の経済的・時間的負担軽減を工夫する。PTA活動について職員で情報を共有する。 ・アンケート等、関係者からの情報・意見等の集約方法等の工夫・改善を図る。	・学校説明会･見学会等への参加者数。 ・生徒・保護者、外部の意見等を把握し、ニーズへの適切な対応と支援ができたか。 ・以上についてアンケート、諸会議の協議を通じて評価する。	学校説明会、部活動体験、学校公開、塾等外部説明会に取り組んだ。彩の国進学フェアでは100組増、その他も参加者増となっている。 HPの学校紹介動画、行事の様子は迅速に更新し質量増。10月現在の希望状況は昨年以上に良好。 PTA活動は計画通り実施。また、職員への活動周知も進めた。 PTA本部役員を中心に後援会の組織改編、空調費一部公費化を受けた負担軽減と諸会費見直し、PTA活動の見直しなど議論を重ねた。	A	引き続き入学希望者の増加策について検討が必要である。 PTA活動の改革について今年度の議論をさらに続けながら、課題の解決と具体化に取り組む必要がある。 保護者、中学生、地域へのICTも活用した情報発信をさらに積極的に行うとともに、コミュニケーションを深めて課題に取り組む。	「彩の国進学フェア」等、外部への積極的な情報発信が入学希望者の増加につながっている。 中学卒業生は、減少傾向にあり県立高校の再編や通信制高校への進学等、中学生の進路選択も多様化している。今まで以上に学校の魅力の積極的発信が求められる。 PTA活動については今後、学校側と話し合いながら学校・生徒・保護者にとってよりよいものにしていく必要がある